市外史跡探訪に参加して（大分市）

石川　学

一一月二六日別府駅を三四名の会員で大分大友史跡発掘調査現地見学に行きました。

会員以外を誘って、とあったので私は訪問看護師の取締役社長高橋枝里先生親子を誘いました。

当人も大変喜んで史談会の良さに探訪の時間が少ないように感じたそうです。こんなに喜んで貰えたので今までの探訪の事を話しました。「本当に勿体ない話ですね」と後悔していたようです。

大分県各地に史跡文化財の宝庫と言うほど多く存在しています。

宣教師ザビエルが九州入りした時、京都から鹿児島、北九州市、日出の鹿鳴越連山を越えて別府入りして、大分府内に入ったと聞きました。

今日のお話とは少し違った様に感じましたが講師が正解と思います。大友宗麟のことは少し知っているつもりでした。講師の話の規模の大きさに、私の心が打たれる程でした。

その時、耳にしていた大友家の家紋です。佐賀県鍋島藩の家紋とよく似たことです。全く一緒の様です。私は最後の質問に過ぎてしまいました。

宗麟資料館にも疑いはなく本当に見事でした。昼食後、発掘現場に行き、宗麟跡地が二百メートル四方が二つあり、豪華な屋敷で有ったことが想像され、全く見飽きない程の素晴らしさでした。発掘場所は、まだまだ沢山有りました。後は十年後らしく私はもう見られません。あの世。

今回の大友館には南蛮、キリスト教、器、発の鍵から出土品歴史資料の戦国大名大友氏最盛期を築いた宗麟実態にせまりました。終わり。

皆さんまたの機会お楽しみに。今日は大変お疲れ様でした。

市外史跡探訪に参加して

右田幸平

本年度の市外探訪は、平成二九年四月一日に開館したばかりの大分市牧にある大分県立埋蔵文化財センターと同市にある大友氏遺跡体験学習館を見学することになった。

一一月二六日（日）集合場所の別府駅には、早い時間から多くの参加者が集まり、全員揃ったところで出発時間を早めて出発することになった。本年度の参加者は三三名。最初に大分県埋蔵文化財センター（以下、埋文と略して表記）を見学する。到着後、講義室に集合。職員の皆さまよりご挨拶を頂いた。ご存知の方も多いと思うが、この建物は以前、県立芸術会館だったものである。このような立派な施設となって再利用されることは、県民として嬉しい限りである。早速、学芸員の先生方による案内で館内を見学させてもらうことになった。案内をして下さったのは調査第二課の吉田寛課長補佐と調査第二課井大樹主事。

埋文の展示室は「豊の国考古館」と「ＢＶＮＧＯ大友資料館」とに分かれている。二グループに分かれて、それぞれ時間をずらして見学することになった。「豊の国考古館」は大分県の歴史を系統的に追っていく展示がなされており、姫島の黒曜石や縄文時代、弥生時代の農具、家畜の骨、古代の棺や神具、中世の石塔、近世城郭の瓦など大変興味深いものが、わかりやすく展示されている。「ＢＶＮＧＯ大友資料館」は大友氏遺跡の出土品を中心に当時の府内の様子がよく理解できるように展示されている。南蛮交易によってもたらされた東南アジアの陶磁器や、唐人町から出土した枕やカードゲーム、当時のキリスト教文化を象徴するメダイなど、見ていくうちに中世の府内にタイムスリップしたような感覚になる。どちらの展示室も展示物の素晴らしさはもちろんのことだが、先生方の大変わかりやすい解説で時間が経つのも忘れるくらい楽しく見学することができた。忙しい時間をさいて私たちの応対をしてくださった学芸員の皆様に感謝したい。

見学の後は講義室に戻り、同館の学芸員で、別府大学の卒業生である、井大樹さんに「別府市所在の古墳について鷹塚古墳の発掘調査から」と題して講義をして頂いた。スライドと資料を使用して、別府の古墳遺跡群について大変詳しく解説して頂いた。講義後は、昼食。食事を終えると再びバスに乗り込み、次の目的地である大友氏遺跡体験学習館に移動し

た。

大友氏遺跡体験学習館は旧万寿寺跡に建てられた体験型学習資料館で、平成二〇年四月二五日に開館。館内にはパネルや大友遺跡の出土品が展示されている。私たちはバスを降りると館内に用意して頂いた椅子に並んで座り、後藤典幸館長の講話を聞いた。館長は元中学校の教員で教育委員会を経て小学校の校長になり、そしてこの館の館長に就任されたとのことで、堅苦しい挨拶はなく、素晴らしい話術で、私たちに大友宗麟のことを楽しく聞かせてくれた。秀逸だったのは館長が作成した宗麟の「履歴書」で、履歴書を見ながら話を聞いていると、宗麟がより身近な人物のように感じられた。話を聞き終えると、トイレ休憩をはさみ、近くにある大友氏遺跡までバスで移動した。

大友氏遺跡は顕徳町にある大友氏館を中心にした中世の遺跡である。平成一三年八月三一日に国指定史跡となり、その後、旧万寿寺、上原館、推定御蔵場跡などが追加指定されてより広域なものとなっている。私たちは遺跡のすぐそばでバスを降り、後藤館長の解説を聞きながら遺跡をぐるりと歩いてまわった。圧巻だったのは中心建物跡（主殿）に続く庭園跡で、東西六七m、南北三〇mの池、東と南には人口の滝まで造営されている。池を中島で東西に区切り、東は「動」を西は「静」を表現しているとのこと。賓客をもてなす迎賓館のようなものだったのだろうか、九州六か国を統治した当時の大友氏のスケールの大きさを肌で体感することができた。

本日は埋蔵文化財センター並びに大友氏遺跡体験学習館の皆様方のご尽力で、大変有意義な研修会になった。心より感謝するとともに、両館の今後益々のご発展を祈念したい。

1．大分県立埋蔵文化財センター

昭和四七年に開設された、大分県教育庁文化課文化財資料室の発掘調査及び保管、収集、整理、展示等の業務の委託機関として、大分県教育庁埋蔵文化財センターとして平成一六年に発足。同資料室が平成九年より大分市中判田の旧職業訓練校跡地を使用していた為、同施設を引き継いで運営された。平成二四年の県立芸術会館の閉館にともない、旧芸術会館への埋蔵文化財センターの移転が決定。移転準備の為、平成二八年九月より中判田の展示を休止。翌年、平成二九年四月一日に「大分県埋蔵文化財センター」と改称して開館した。「豊の国考古館」「ＢＶＮＧＯ大友資料館」「歴史体験学習館」「資料室」

が設置され、家族連れでも楽しめる充実した施設となっている。

2. 大友氏遺跡体験学習館

「四五〇年前の戦国時代、大友宗麟によって西洋文化が華開いた大分のまちを楽しく学べる歴史の教室」として大友氏の菩提寺であった旧万寿寺跡地に大分市が設置、平成二〇年四月二五日に開館。館内には戦国時代の府内の様子を解説したパネルや出土品などが展示されている。また、大友氏遺跡近くにあることから同館を拠点にして大友氏遺跡を見学したり、大友氏ゆかりの旧跡、史跡を散策したりできるようになっている。

3. 大友氏遺跡

大分市顕徳町にある豊後国を四〇〇年間統治してきた守護大名、大友氏の居館跡（大友館跡）を中心とした遺跡。一四世紀から一六世紀末にかけて大分川河口左岸につくられた都市「豊後府内」の様相を知ることができる。平成一〇年に大規模な庭園遺構が発見されたことがきっかけとなり、その後現在まで二〇年にわたって発掘調査がすすめられている。戦国時代の府内のほぼ中央に位置し、居館は最盛期には一辺二〇〇m四方（方二町）の規模に復元でき、全国でも最大級の方形館になる。これまでの調査で、池の規模が確定したほか中心建物が確認されるなど全容が明らかになってきている。大友氏は南蛮貿易を行い、当時の西洋でもっとも知られた「国王」だった。大友氏遺跡の歴史的重要性は極めて高いとされている。平成一三年八月三一日より国指定史跡。大分市では二〇一九年に庭園を二〇二九年に主殿を復元し歴史公園として整備する計画を立てている。

大分県立埋蔵文化財センター

大分県立埋蔵文化財センター

大友氏遺跡体験学習館

大友氏遺跡発掘現場

大分県立埋蔵文化財センター（大分市牧）